

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：社会福祉法人さぼうとにじゅういち

1. 事業の概要

事業名称	外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教育展開事業～心豊かな「定住」と、より良い「伴走」を目指して～
事業の目的	本事業の目的は、日本に定住する覚悟を決めた外国人住民（とくに難民）が、言葉の学びを通して生活基盤を強固なものとし、より心豊かな「定住」に向かって前進していくこと、より多くの日本人住民・先輩外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、結果として、関わる全ての者たちが、共に手を携え、より良い多文化共生社会日本をつくっていくことである。 ※当団体は、難民を主な支援対象とし、昭和54年から活動を続けている。「定住」を目指す外国人住民が抱える問題や悩み、希望、期待、そして成長を、30年以上の歳月をかけて間近で見えてきた。「難民支援」という活動の性質上、地域に深く根差した活動展開はできないが、団体がこれまで得た知見、先輩外国人住民の経験、文化庁事業の成果を反映させ、「日本語教育」「人材育成」の具体の提示、「現場で使える教材」の提供を進め、地域日本語教育に貢献したいと願っている。とくに平成30年度は、平成28年度より3か年の計画で進めてきたそれぞれの取組を、より完成度の高い形で完了させることが、当団体に課せられた使命であると考えている。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	（当団体の主たる支援対象者である「難民」の場合、国での迫害を逃れ、他国に保護を求めた方々であり、まずは「安全安心に生きること」が日本に暮らす目的である。彼らの場合、自国政府からの保護や支援は期待できない。とくに自身の出身地域、出身国から来日した、異なるステイタスの方々と不用意に接触することはできない。そのため、地域との関わりがもちにくい。そうした事情から、以下は「地域の実情」というより「難民」もしくはそれに類する方々についての実情・課題となる。） 平成28年の難民認定者は28人で、「アフガニスタン7人、エチオピア4人、エリトリア3人、バングラデシュ2人」という国別順位となっている。10年前の平成18年、難民認定者34人のうち、28名をミャンマー出身者が占めていた時とは、大きくその様相が変わってきている。 つい最近まで、いわゆる「条約難民」の大半を占めていたミャンマー出身者の多くは、同国人（同民族）コミュニティに属し、そのコミュニティを生活の拠点として頼り、そこそこ活発な情報交換も行いながら、日本での生活基盤を固めてきた。彼らの日本在住の年数は長期化し、「より良い仕事」を求め、「子どもの教育」にも積極的に関わり、「健康」や「人間関係」などに悩みながら、「定住の質」に心を砕く余裕も生まれつつある。そこでまた、「日本語学習」の大切さを実感し、「ステップアップのための日本語や日本社会についての学び」を強く求めている。その一方、ここ数年は当団体もアフガニスタン、エチオピア、シリア、コンゴ民主共和国等、属するコミュニティをもたず、日本への定住に困難を感じる難民の方々との関わりが増えている。彼らにとっては、まずは最低限の生活上の行為を何とか達成できるようになることが大きな目的であり、不安定な状況にありながらも、日本で何とか生きていくため、日本語学習へのニーズは非常に高い。 この二極化した日本語学習のニーズや求めに対応し、具体的な方策を創出していくことが喫緊の課題である。そこで得られた具体的な方策は、難民だけでなく、日本への定住を心に決めた多くの外国出身者にとっても有益な日本語教育のモデルであり、教材となるであろう。 また、これは「難民」の事情ではないが、東京都内で活動する当団体の通常の学習支援室事業においても、日本語学習支援にあたるボランティア人材は常に不足している。新たなボランティアの獲得、ボランティアの育成をいかに行うかは、常に大きな課題であると認識している。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	—
事業内容の概要	【1 日本語教育】 「難民のための参加型日本語教室」として、以下の2つの講座を実施した。 ①「体験を通して学ぶ導入期日本語講座」 日本語教育の経験豊富な指導者のもとで、ボランティアが学習者と共に学びを深めることのできる日本語教室を実施。体験を重視した参加型の学習を通じて、学習者が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるようになることが教室の目標である。 ②「生活力向上のためのワークショップ」&「語り合い・学び合いの会」 来日から間もない外国人住民も含めて、生活上必要な知識や情報を早い段階で獲得し、それにより日本社会や日本語への関心も深めていくことが講座の目的である。在住歴の長い外国人住民が時には自身の経験を来日から間もない外国人住民に共有するなど、学びの場は「伴走」の場でもある。二極化した日本語学習のニーズや求めに対応できる講座となっている。平成25年度以来、実施を重ね、取り扱うテーマも多岐にわたり、内容も充実してきている。平成30年度は、「身の回りのお金（年金）」「健康」等をテーマとしたワークショップを実施した。また、「子どもの育ち」をテーマに、日本人住民も外国人住民も共に参加する「語り合い・学び合いの会」を実施した。 ON1合格者を中心とする外国人住民には準備段階から関わってもらい、「彼ら一人一人がコミュニティのキーパーソンとして成長すること」、「関わる行政や専門家たちが難民をはじめとする外国人住民に対して理解を深めること」が副次的効果として見られた。 ○資料（教材）の作成や見直しにも力を入れた。 【2 人材育成】 「地域日本語教室ボランティアのためのパワーアップ研修」として、以下の通り異なる3つのタイプの講座を実施した。 ①「生活者としての外国人」について当事者からの発信に耳を傾けながら学ぶ「理解を深める講座」 「日本につながった私たちの今～10代・20代を駆け抜けて～」と題し、1回（4時間）実施。30代の当事者4名にご登壇いただいた。 ②日本語学習支援やボランティアの経験の少ない方々が、基本的な活動の姿勢などを学ぶための「活動基礎講座」 平成29年度に開始した「活動基礎講座」の内容を吟味し、さらに充実させ、4時間×5回の講座を全2回（春夏・秋冬）開催した。活動を始めたばかりの地域日本語教室ボランティアにとって有益な講座内容について具体的な検討を進めた。 ③日本語学習支援の実践力を磨くための「ブラッシュアップ講座」 ○地域日本語教室の現場に関心をもってもらうこと、外国人住民のニーズや求めに応じた活動ができるボランティアを育成していくことを目的とする。ボランティア人材の不足という課題解決に、即効性はないかもしれないが、講座の連続開催により、ボランティアに関心をもった方々の掘り上げができることを期待する。また、講座も回を重ね、徐々に参加ボランティア同士の「ゆるやかなネットワーク」がつけられている。そのことがボランティア活動の意欲を向上させることに少なからず貢献するものと実感している。 【3 教材作成】 「ワークショップに連動した読み教材」作成（継続した取組） 「「働く」を意識した進路選択」のテーマで作成 ・平成29年度事業で実施した「働く」を意識した進路選択のワークショップ資料をもとに、「説明つき冊子」を作成した。 テーマへの関心から、「読むこと」への意欲を引き出していくことを目的としている。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	高橋 敬子	(社福)さぼうと21・事務局長
2	岩本 彩	東京都済生会中央病院
3	奥原 淳子	早稲田大学日本語教育研究センター他
4	渋谷 恵	明治学院大学 心理学部教育発達学科
5	田中 美穂子	早稲田大学日本語教育研究センター他
6	中川 康弘	中央大学経済学部
7	長崎 清美	日本語教師(フリーランス)
8	矢崎 理恵	中国帰国者支援交流センター、(社福)さぼうと21
9	LIA CING LAM MANG	(公財)アジア福祉教育財団・難民事業本部



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年6月3日 (日) 19:00～21:00	2時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋 敬子、岩本 彩 奥原 淳子、渋谷 恵 田中 美穂子、中川 康弘 長崎 清美、矢崎 理恵 LIA CING LAM MANG (事務局神村同席)	1. 運営委員紹介 2. 各取り組みの方針、実施時期、内容等を検討 ⇒取り組みごとの担当者を決定し、小委員会を中心に進めていくことを決定 3. 作成教材の方向性を検討 ⇒昨年度の文化庁事業のワークショップにて取り扱った資料を教材化することで方向性が決定
2	平成31年3月9日 (土) 18:30～20:30	2時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋 敬子 奥原 淳子 田中 美穂子 矢崎 理恵 LIA CING LAM MANG (事務局神村、築田同席)	1. 各取り組みの報告と意見交換 (日本語教室、ワークショップ、ブラッシュアップ講座、活動基礎講座、理解を深める講座、教材作成) ⇒日本語教室の中での文法の扱い方について、人材育成の講座における事前調整について等 2. 次年度以降の事業実施について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・「日本語教室の開催」「ワークショップの実施」にあたり、以下の団体とは「広報」「受講者募集」「事業内容の共有」等により協力体制をとった。 また、その協力体制により、当団体が作成した「教材」の外国人住民への周知が進んでいる。 ■難民支援関連団体：(特非)なんみんフォーラムFRJ(当団体もメンバー団体)をはじめとする難民支援団体、(公財)アジア福祉教育財団難民事業本部(特に条約難民とその家族について) ■地域の日本語教育関係団体：東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)(当団体も正会員、コーディネーターは役員を務める)、埼玉日本語ネットワーク、房総日本語ボランティアネットワーク ■行政、地域の国際交流関連団体：品川区(国際課)、東京都国際交流委員会、東京都生活文化局(コーディネーターは平成28年度より多文化共生推進委員会委員)、東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)、(一財)自治体国際化協会 ・毎年定期的にボランティア向けの講座を実施したことにより、東京、埼玉、神奈川、千葉等の地域日本語教室との情報共有が進んだ。 ・「理解を深める講座」「活動基礎講座」「ワークショップ」実施での協働により、以下の機関や団体とは連携体制が構築されつつあり、新たな協働事業が検討されつつある。 明治学院大学(内なる国際化プロジェクト)、品川区、生活クラブFPの会、(株)進路情報ネットワーク、(社福)日本国際社会事業団、(特非)難民支援協会、カトリック東京国際センター、(特非)PEACE、東京都行政書士会 品川支部、(特非)国際活動市民中心 等 ・文化庁事業を受託して以来、外部団体との連携・協力のネットワークが広がり、より広範囲からのニーズや要望が寄せられるようになってきている。新たな事業を他団体との連携の中で実施する可能性が広がっている。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

	運営委員会 運営委員長：高橋敬子(全体総括・予算執行者) 社会福祉法人さぼうと21 ↓ ↑ 全体コーディネーター：矢崎理恵 → → → → → 事務局 神村みどり(主に広報、事務、会計担当) ⇒ 関連団体 ((3)連携体制にて記載) ※各取り組みについては、小委員会を設けて検討した。(★コーディネーター ☆副コーディネーター) ↓ ①「日本語教室検討小委員会」 2.5時間×1回、2時間×2回、1.5時間×1回、1時間×3回、0.5時間×1回実施 ⇒ 関連団体を通じて周知 ★田中美穂子・☆矢崎理恵・田中康予(指導者)=計3名 コーディネーターは指導者を含む小委員会メンバーと共に、指導方法や内容、評価のための方法について検討を行った。また、毎回報告書の確認を行い、必要に応じて教室の見学を行いながら、指導者、ボランティアと話し合いをし、内容の充実を図った。 副コーディネーターは他団体との交渉や内部調整、事務局と協力しての広報活動を行った。 ②「ワークショップ検討小委員会」必要に応じて随時相談⇒ 他団体との協力により実施 ★神村みどり・高橋敬子・矢崎理恵・LIA CING LAM MANG=計4名 コーディネーターは全体コーディネーターと協力して他団体との交渉や講座内容について検討するためのヒアリング、講座内容について検討するための小委員会の開催、講師や会場の手配、広報、評価のためのアンケートの実施を担当した。また、教材作成検討小委員会との調整を図った。 他の委員は各回の講座内容について適宜助言を行った。 ③「人材育成検討小委員会」 2時間×1回、1時間×2回実施 ⇒ 他団体との協力により実施、関連団体を通じて周知 ★奥原淳子・☆長崎清美・矢崎理恵・田中美穂子=計4名 コーディネーターは講座内容について検討するための小委員会を開催し、全体コーディネーターと協力して講師や会場の手配調整を行った。 正副コーディネーターは講座内容についての具体案の提示、評価のためのアンケートの実施、受講者フォローを実施した。 他の委員は各回の内容について適宜助言を行った。 広報に関しては、事務局が中心となって行った。 ④「教材作成検討小委員会」 必要に応じて随時相談 ⇒ 他団体との情報共有 ★矢崎理恵・神村みどり・高橋敬子=計3名 コーディネーターは作成教材の内容や構成などを検討するための小委員会を随時開催し、内容について検討を重ねた。 委員は教材作成者としても参画した。
本事業の実施体制	

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：難民のための参加型日本語教室 ①体験を通して学ぶ導入期日本語講座（春夏講座）】										
目的・目標	・生活者としての外国人である受講者（難民）が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える（または、行えるという自信がもてる）ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員であるという意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること ・ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること									
内容の詳細	以下の体験を達成することを目標に掲げ、その達成の過程で日本語の表現を学び、日本語でのやりとりを実際に経験していった。「自己紹介」「防災センター見学」「トライ日本の味」「街歩き」「おしゃべりタイム」など									
実施期間	平成30年6月2日～平成30年10月13日				授業時間・コマ数		1回 3時間 × 20回 ＝ 60時間			
対象者	東京近郊に在住する難民 日本語でのコミュニケーションがほとんどとれない人				参加者		総数 11人 （受講者 8人、指導者・支援者等 3人）			
カリキュラム案活用	カリキュラム案に基づき受講者のニーズを選定し、体験・対話を重視した教室活動を展開した。									
使用した教材・リソース	・『はじめの500語』（当団体作成教材）・『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』（当団体作成教材） ・『体験型講座実例集』（当団体作成）・指導者作成教材									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内 訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ミャンマー6人、チュニジア1人、スーダン1人									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年6月2日（土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	5	Ⅶ人とかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	A)参加者の日本語レベルチェック 参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「日本語であいさつや簡単な自己紹介ができる」 1. あいさつ 2. 敬称の言い方 3. 天気のことば 4. 国名、職業名 5. ～が好きです		田中康予		
2	平成30年6月3日（日） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅶ人とかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「お互いのことを聞きあう」 1. 前回の復習 2. 趣味/好きな○○ 3. カレンダーの表現～来日年月日、誕生日を話す 4. 家族呼称の表現 5. 動詞 6. ～たいです/～がほしいです		田中康予		
3	平成30年6月9日（土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅶ人とかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う X情報を収集発信する 21通信する (47) 電話をかける	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「人前で自己紹介ができる」 1. 前回の復習～インタビュー活動 2. ミニ作文を書く 3. ミニスピーチ「自己紹介」 4. 身体名称 5. 病気の症状 6. 欠席や遅刻の理由の言い方		田中康予		
4	平成30年6月10日（日） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	X情報を収集発信する 21通信する (47) 電話をかける I健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)119や110に電話をする (01)医療機関で治療を受ける	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「日本語で電話がかけられる」 1. 前回の復習 2. 電話のかけ方 3. 欠席・遅刻の電話をかける 4. 110、119に電話をかける 5. 予約の電話をかける 6. 病院の言葉、～科		田中康予		
5	平成30年6月16日（土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	6	I健康・安全に暮らす 02安全を守る (01)医療機関で治療を受ける	A)目標「日本語で病院の診察が受けられる」 1. 前回の復習（～科）2. 受付の流れを知る 3. 問診表を書く 4. 受付で会話練習 5. 医者言葉 B)参加者の識字レベルに合わせた文字学習		田中康予		
6	平成30年6月23日（土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	5	I健康・安全に暮らす 01健康を保つ (01)医療機関で治療を受ける (02)薬を利用する	A)目標「自分で薬を買うことができる」 1. 前回の復習（病院、医者のことば） 検査の言葉、診察を受ける 2. 処方箋について 3. 薬のことば 4. 薬局での会話 5. 薬の袋の情報を読む 6. 病院リストの作成		田中康予		
7	平成30年6月30日（土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	5	I健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え対応する	A)目標「災害のことばを理解できる」 「避難の準備などを知る」ことできる 1. 災害について 2. 災害時に情報を得る手段 3. 非常用持ち出し袋について 4. 災害時に人に聞いたり、知らせたりできる 5. 避難場所について 6. 防災館見学について		田中康予		

8	平成30年7月7日(土) 12時15分～15時15分 (休憩なし)	3	池袋防災館	4	I 健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え対応する	【防災館見学】 目標:「防災館での体験を通して、災害時の対応を知ることができる」 「約束の時間までに目的地にすることができる」 1. ビデオ視聴 2. 地震体験 3. 消火体験 4. 煙体験 5. フロアの見学	田中康予	LASHI ROI SAN(ビルマ語通訳)
9	平成30年7月14日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	I 健康・安全に暮らす 02安全を守る (06)災害に備え対応する Ⅴ社会の一員となる 15地域・社会のルール・マナーを守る (34)住民としてのマナーを守る	A)目標「非常時の生活や食事の工夫について知ることができる」 「非常時でもあるものを使い、工夫しておいしく食べられるものを考えることができる」 1. 防災館の振り回り 2. 救急の仕方(心肺蘇生法)について 3. 災害時の生活の工夫 4. 災害食作り 5. ごみの種類・分別について 6. ごみ出しについて	田中康予	
10	平成30年7月21日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	3	Ⅵ目的地に移動する (07)公共交通機関を利用する	A)目標「駅にある表示や漢字を見て、理解できること」「駅や電車のアナウンスを聞いて理解できること」「駅員に質問ができること」 1. 駅や電車にあるもの・経路について 2. 切符の買い方、乗り換えについて 3. アナウンスを聞く 4. 表示や漢字を理解する 5. 駅員に質問をする 6. 駅で練習 B)参加者の識字レベルに合わせた文字学習	田中康予	
11	平成30年8月4日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅸ自身の豊かにする (20)余暇を楽しむ	【トライ日本の味①】 目標:「料理作りを通して、日本の文化や食習慣を知る。」「スーパーで必要なものを買うことができる」「母国語で知っている料理や食材の語彙を日本語でも理解できる」 1. メニューの提示 2. いろいろな調味料 3. 手巻き寿司の具選び 4. スーパー見学、食材の買い出し 5. 次回の準備	田中康予	植木千津(指導補助)
12	平成30年8月11日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	5	Ⅸ自身の豊かにする (20)余暇を楽しむ	【トライ日本の味②】 目標:「料理作りを通して、日本の文化や食習慣を知る。」「母国語で知っている料理や食材の語彙を日本語でも理解できる」 「日本食の作り方を理解し、自分で作ることができる」 1. おかず作りなど準備 2. 前回の振り返り 3. 調理実習 4. 配膳、実食 5. 今日のまとめ、レシピ作り	田中康予	植木千津(指導補助)
13	平成30年8月18日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅸ自身の豊かにする (20)余暇を楽しむ 14 他者との関係を円滑にする (31)人と付き合う	A)目標「日本の文化を知り、体験できる」 「お世話になっている人に手紙を書くことができる」「自分の国や町について紹介できる」 1. 書道について紹介 2. 書道体験 3. 日本のはがきの書き方について 4. 残暑見舞いを書いてみる 5. 「おしゃべりタイム」について B)参加者の識字レベルに合わせた文字学習	田中康予	
14	平成30年8月25日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅸ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31)人と付き合う	A)目標「自分の国や町について日本語の文で表現することができる」「自己紹介文を書くことができる」 1. 来週のおしゃべりタイムについて 2. スピーチを書く 3. スピーチ用の写真を見つける 4. 日本人への質問を考える 5. あいさつや司会など当日の役割を決める B)参加者の識字レベルに合わせた文字学習	田中康予	
15	平成30年9月1日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅸ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31)人と付き合う	A)目標「自分のことや自分の国や町について日本語の文でスピーチすることができる」「聞いている人がわかる日本語で話することができる」 1. 今日の目標を決める 2. 練習 3. おしゃべりタイム 4. 振り返り	田中康予	
16	平成30年9月15日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	3	Ⅸ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31)人と付き合う Ⅹ情報を収集・発信する (46)インターネットを利用する	A)目標「自分のスピーチを見て、次回の目標を見つける事ができる」「日本語で入力し、日本語で知りたい情報を調べる事ができる」 1. スピーチのふり回り 2. 日本語で文字を入力する 3. 地図アプリを使って調べる 4. 日本語で情報を検索する 5. 注文の仕方を知る B)参加者の識字レベルに合わせた文字学習	田中康予	
17	平成30年9月22日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	3	Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する (08)物品購入・サービスを利用する	A)目標「日本語で自分が探しているものを尋ねて聞くことができる」「今まで勉強した言葉を使ったり、見たりして自分が欲しいものや探しているものを自力で見つけたり、買ったりすることができる」「地図アプリを使い、目的地へ行くことができる」 1. 前回の復習 2. 今日の流れと役割決め 3. 街歩き 4. 振り返り	田中康予	
18	平成30年9月29日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	3	Ⅸ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31)人と付き合う	A)目標「修了式で話したいスピーチを考え、日本語で表現することができる」「出し物についてアイデアを出し相談して決めることができる」 1. 前回の復習 2. 修了式についての説明 3. スピーチを書く 4. 司会者を決める 5. 出し物について話し合う B)参加者の識字レベルに合わせた文字学習	田中康予	
19	平成30年10月6日(土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅸ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31)人と付き合う	A)目標「歌の歌詞を聞き取り、理解することができる」「スピーチを完成させ、すらすらと発表できるようになる」 1. 前回の復習 2. スピーチを消毒する 3. スピーチの練習 4. 歌の内容を理解する 5. 修了式のリハーサル B)参加者の識字レベルに合わせた文字学習	田中康予	
20	平成30年10月13日 (土) 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅸ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31)人と付き合う	目標「聞いている人の顔を見ながらスピーチをすることができる」「楽しく日本語の歌を歌うことができる」 1. 修了式の準備 2. 修了式 3. 歌を歌う 4. 写真を見ながら今までの授業の振り返り	田中康予	
★	平成30年10月13日 (土) 11時～12時30分 17時～19時	3.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	4	—	受講者へのヒアリング	—	●ヒアリング通訳(ビルマ語): LIA CING LAM MANG

日本語教育の実施【活動の名称：難民のための参加型日本語教室 ①体験を通して学ぶ導入期日本語講座（秋冬講座）】										
目的・目標	・生活者としての外国人である受講者（難民）が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える（または、行えるという自信がもてる）ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員であるという意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること ・ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること									
内容の詳細	以下の体験を達成することを目標に掲げ、その達成の過程で日本語の表現を学び、日本語でのやりとりを実際に経験していった。「自己紹介」「防災センター見学」「トライ日本の味」「街歩き」「おしゃべりタイム」など									
実施期間	平成30年10月20日～平成31年3月9日				授業時間・コマ数		1回 3時間 × 20回 = 60時間			
対象者	東京近郊に在住する難民 日本語でのコミュニケーションがほとんどとれない人				参加者		総数 14人 （受講者 10人、指導者・支援者等 4人）			
カリキュラム案活用	カリキュラム案に基づき受講者のニーズを選定し、体験・対話を重視した教室活動を展開した。									
使用した教材・リソース	・『はじめの500語』（当会作成教材）・『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』（当会作成教材） ・『体験型講座実例集』（当会作成）・指導者作成教材									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内 訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ミャンマー4人、コンゴ民主共和国3人、トルコ1人、カメルーン1人、ギニア1人									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年10月20日 （土） 13時～16時10分	3	さぼうと21事 務所	1	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B) 目標「自己紹介ができる」 1、あいさつ 2、国名・職業 3、～が好きです		田中康予		
2	平成30年10月27日 （土） 13時～16時10分	3	さぼうと21事 務所21事務所	1	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る (05) 災害に備え対応する	A) 参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B) 目標「自己紹介で質問したり、答えたりすることができる」 「日本で起こる災害を知ることができる」 1、前回の復習 2、天気の言葉、形容詞 3、時間 4、インタビュー 5、災害について		田中康予		
3	平成30年11月3日（土） 13時～16時（休憩なし）	3	池袋防災館	1	Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る (05) 災害に備え対応する	目標「駅の案内表示を見て、指定の出口へ行くことができる」 「Google mapを使って目的地まで行くことができる」 「防災体験ツアーに参加し、災害について知り、どのように備えるかを学ぶ」(※1～4が防災体験ツアー) 1、ビデオ視聴「君の命を守りたい」 2、消火体験 3、煙体験 4、地震体験 5、フロア見学 6、まとめ		田中美穂子	柴田都志子（フランス語通訳）	
4	平成30年11月10日 （土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	2	日本語レベルチェック	A) 参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B) レベルチェック		田中美穂子		
5	平成30年11月17日 （土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	A) 参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B) 目標：「日本語であいさつやコミュニケーションが取れる」「日本語で自分の名前や趣味など簡単なことを言えるようになる」 1、あいさつ・天気 2、国 3、趣味 4、好きな○○		田中康予		
6	平成30年11月24日 （土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	A) 参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B) 目標：「日本語で自分の名前や趣味など簡単なことを言えるようになる」「日本語で相手の生活について聞くことができる」 1、前回の復習 2、カレンダーの言葉 3、家族 4、動詞		田中康予		
7	平成30年12月1日（土） 13時～16時10分	3	にほんごタウン	4	X情報を収集発信する 21通信する (47) 電話をかける	A) 参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B) 目標：「日本語で相手の生活について聞くことができる」「欠席連絡をすることができる」 1、前回の復習 2、自己紹介インタビュー 3、体・病気のことば 4、理由の言い方 5、電話のかけ方		田中康予		

8	平成30年12月8日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	5	X情報を収集・発信する (46) インターネットを利用する 血消費活動を行う05物品購入・サービスを利用する (08) 物品購入・サービスを利用する	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「日本語で入力し、日本語で知りたい情報を調べる事ができる」「生活の中で困っていることを自分の言葉でみんなに話すことができる」「町歩きで行く場所やしたいことをみんなで決める」 1、日本語で文字を入力する 2、地図アプリを使って調べる 3、町の中で困ったことなどを話す 4、注文の仕方を知る	田中康予	
9	平成30年12月15日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	4	血消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する (08) 物品購入・サービスを利用する	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「自分が買いたいものを探すことができる」「日本語で丁寧に質問したり、注文したりすることができる」 1、今日の街歩きの流れを確認 2、駅で見るもの、漢字 3、注文の仕方を練習 4、街歩き	田中康予	
10	平成30年12月22日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	2	IX自身の豊かにする (20) 余暇を楽しむ	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「日本の文化を知り、体験できる」 「お世話になっている人に年賀状を書くことができる」 1、日本のお正月や干支について紹介 2、日本のはがきの書き方について 3、年賀状を書いてみる	田中康予	
11	平成31年1月5日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	4	IX自身の豊かにする (20) 余暇を楽しむ Ⅷ社会の一員となる 15地域・社会のルール・マナーを守る (34) 住民としてのマナーを守る	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「書道を体験し、好きな言葉を書くことができる」「ごみの分別のルールを知り、自分で分別して捨てることができる」 1、年末年始の話 2、書道紹介 3、書道体験 4、ごみの種類・分別について 5、ごみを出しについて	田中康予	
12	平成31年1月12日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	4	IX自身の豊かにする (20) 余暇を楽しむ	【トライ日本の味①】 目標:「料理作りを通して、日本の文化や食習慣を知る。」「スーパーで必要なものを買うことができる」 「母国語で知っている料理や食材の語彙を日本語でも理解できる」 1、餅について 2、メニューの提示 3、いろいろな調味料 4、手巻き寿司の具選び 5、スーパー見学、食材の買い出し 6、次回の準備	田中康予	植木千津(指導補助)
13	平成31年1月19日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	8	IX自身の豊かにする (20) 余暇を楽しむ	【トライ日本の味②】 目標:「料理作りを通して、日本の文化や食習慣を知る」 「母国語で知っている料理や食材の語彙を日本語でも理解できる」 「日本食の作り方を理解し、自分で作ることができる」 1、おかず作りなど準備 2、前回の振り返り 3、調理実習 4、配膳、実食 5、今日のまとめ、レシピ作り	田中康予	植木千津(指導補助)
14	平成31年1月26日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	6	I 健康・安全に暮らす 02安全を守る (01) 医療機関で治療を受ける	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「日本の病院や診察の流れを理解することができる」 「日本語で病院の診察が受けられる」 1、病院の言葉、〜科 2、受付の流れを知る 3、問診表を書く 4、受付で会話練習 5、医師の言葉	田中康予	
15	平成31年2月2日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	9	I 健康・安全に暮らす 01健康を保つ (01) 医療機関で治療を受ける (02) 薬を利用する	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「自分で薬を買うことができる」 1、前回の復習(病院、医師のことば)、診察を受ける 2、処方箋について 3、薬のことば	田中康予	
16	平成31年2月9日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	5	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「自分の国や町について日本語の文で表現することができる」「自己紹介文を書くことができる」 1、来週のおしゃべりタイムについて 2、スピーチを書く 3、スピーチ用の写真を見つける 4、日本人への質問を考える 5、あいさつや司会など当日の役割を決める	田中康予	
17	平成31年2月16日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	7	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	目標「自分の国や町について日本語で発表することができる」 「日本人の方に質問し、話を続けることができる」 1、本日の予定確認 2、各自練習 3、リハーサル 4、目標の設定 5、おしゃべりタイム 6、振り返り	田中康予	
18	平成31年2月23日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	6	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「自分のスピーチを見て、次回の目標を見つける事ができる」 「修了式で話したいスピーチを考えて、日本語で表現することができる」 「出し物についてアイデアを出し合い相談して決めることができる」 1、スピーチのふり返り 2、修了式についての説明 3、スピーチを書く 4、出し物について話し合う	田中康予	
19	平成31年3月2日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	5	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 B)目標「歌の歌詞を聞き取り、理解することができる」「スピーチを完成させ、すらすらと発表できるようになる」 1、前回の復習 2、スピーチの練習 3、司会進行者などを決める 4、歌の内容を理解する 5、修了式のリハーサル	田中康予	
20	平成31年3月9日(土) 13時~16時10分	3	にほんごタウン	6	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	目標「自分の目標を意識してスピーチをすることができる」「楽しく日本語の歌を歌うことができる」 1、修了式の準備 2、修了式 3、歌を歌う、歌の朗読	田中康予	
★	平成31年3月9日(土) 10時30分~12時30分 16時30分~18時30分	4	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	6	—	受講者へのヒアリング	—	●ヒアリング通訳(フランス語): 柴田 都志子 ●ヒアリング通訳(ビルマ語): LIA CING LAM MANG

(1)特徴的な活動風景(2回分)

○取組事例①

活動名:おしゃべりタイム

概要:「日本人との日本語でのやりとり」を楽しむ活動

目標:1、人前で話題提供スピーチができる。

2、日本語で発信し、積極的にコミュニケーションをとることができる

【春夏講座 第14、15回 平成30年8月25日、9月1日／秋冬講座 第16、17回 平成31年2月9日、16日】

■目標「ミニスピーチをしてみよう」「日本人と日本語でやりとりをしよう」

■受講者側からみた授業の流れ

第1週:準備

(1)「おしゃべりタイム」のスピーチの練習をする。司会を決め、進行の練習もする。

(2)日本人ボランティアへの質問を考える。

第2週:おしゃべりタイム当日

(3)受講者の司会の下、各受講者が簡単なミニ文化紹介のスピーチをする。

(4)受講者と日本人ボランティアのペアでおしゃべりを楽しむ。

(「自己紹介」「自国紹介」「日本人ボランティアへの質問」を基本の流れに、自由に話をすすめる。)

(5)終了後、教室に戻り、分からなかった表現を質問したり、感想を述べ合ったりする。

(6)日本人ボランティアからのメッセージを読む。

■教材・資料

・スピーチ原稿用紙

・質問用紙

・振り返り用紙

・ボランティア向け協力依頼レター、メッセージ記入用紙

※写真は春夏講座



○取組事例②

活動名:トライ日本の味

概要:日本料理を作りながら日本語を学ぶ。

目標:1、日本料理を作る一連の体験を通して、日本語でのやりとりや生活上必要とされる様々な行為ができるようになる。

2、買い物、調理、実食等の体験を共有することで、参加者と日本語でやりとりする意欲を向上させ、日本語を話す・学ぶ。

【春夏講座 第11回 平成30年8月4日／秋冬講座 第12回 平成31年1月12日】

■目標「日本料理について知ろう」「買い物をしよう」

■受講者側からみた授業の流れ

(1)次週の「トライ日本の味」調理実習について説明を聞く。日本料理の基本の調味料について説明を聞き理解する。

(2)会計係を決めて、会費を集める。

(3)食材リストを見ながら、手巻き寿司の具材として入れたいものを話し合う。1人2品ずつ選び、カードに書き入れる。

値段を確認してから、買う物を決めて、買い物に行く。

(4)スーパーで目的の品を探し、値段を見て買う。会計をし、領収書をもらう。

(5)教室に戻り、作り方プリントに分量を聞き取って記入する。同プリントを見ながら、だし汁、すし酢、大根の漬け物を作る。

(6)次週の段取りを相談する。

↓

【春夏講座 第12回 平成30年8月11日／秋冬講座 第13回 平成31年1月19日】

■目標「日本料理を作ってみよう」「作った料理のレシピを書こう」

■受講者側からみた授業の流れ

(1)たまご焼を作る。

(2)すし飯を作る。先週作った「すし酢」を使用。

(3)味噌汁を作る。先週作った「だし汁」を使用。

(4)手巻き寿司に使う食材を切り、皿にのせる。

(5)テーブルセッティングをしてから、「いただきます」の挨拶をする。

(6)感想を述べ合いながら、様々な具材を試す。

(7)簡単に片付けた後、みそ汁や卵焼きのレシピを書く。

■使用した教材(すべてオリジナル)

・調味料リスト(説明資料)

・食材リスト(写真や目安価格入りの食材一覧表)

・だし汁、すし飯、大根のつけもの 調味料分量の聞き取りプリント

・レシピを書くワークシート

※写真は秋冬講座



(2) 目標の達成状況・成果

期間中に実施した以下A～Fの6点より、目標達成状況・成果を検証する。(A、B、D、Eは各講座の終了時に実施)

A) 受講者対象の個別ヒアリング(ビルマ語、フランス語、英語の通訳あり)

B) 受講者対象の振り返りアンケート

C) 受講者対象の日本語能力判定(各講座開始前・終了後に実施)

D) 受講者対象の文化庁書式アンケート

E) 指導者対象の振り返りインタビュー

F) コーディネーター、指導者、指導補助者、日本語教室小委員会委員の観察

1、受講者目標「日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという自信がもてる)ようになる」「日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員であるという意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになる」について

→十分に達成されたと考える。ヒアリングやアンケートで受講者から必ず聞かれるのは「文字が読めるようになった」「日本の文化や習慣について理解できた」「今までできなかった生活上の行為が日本語でできるようになった/これまで日本語でなんとか生活上の行為を行ってはきたが、日本語できちんとできるようになった」「以前は日本語で話すことに自信がなかったが、今は自信をもって話せる」という言葉である。ここから、本教室への参加が、受講者の日本語学習への扉を開き、その意欲を高めていること、その結果、教室内外での日本語学習が進み、日本社会で生きていく自信につながっていることがわかる。また、日本語能力判定においても、講座開始前、終了後の比較で、各受講者ともそれぞれのレベルで日本語能力を向上させていた。

2、ボランティア(日本人住民)目標「活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになる」について

→今年度は、「難民に関心のある大学生」「日本語教師養成講座(420h)を受講中の社会人」が参加した。活動を通して、日本に暮らす外国人(特に活動の対象となる難民)について理解を深め、わかりやすいコミュニケーションの仕方を学ぶ姿が見られた。本教室が日本語教育の人材育成に一定の役割を果たしたということができよう。

3、今年度より、日本語学校で経験を積んだ地域日本語教育に初めて携わる指導者を迎えた。「生活者としての外国人」に対する日本語教育として、本講座の目指すもの、授業内容、授業の具体的な進め方等について、コーディネーターと指導者間で何度も話し合いや打ち合わせの機会を設け、両者の協働が図られた。結果として、本事業が、学校機関で日本語教授経験のある指導者に対する地域日本語教育人材の育成の場となり、同時に、地域日本語教育のコースコーディネーター育成にも一定の機能を果たすこととなった。

(3) 今後の改善点について

今年度より新たな指導者を迎え、これまで本事業で確立してきたシラバスを基に、受講者のレベルやニーズ、状況に応じて柔軟に教授内容をアレンジしていくことが実現した。前年度に挙げた「コーディネーターによる受講者の日本語能力判定の結果を指導者や受講者にどのように還元していくか」という課題に対し、①指導者に判定結果を指導上の留意点として共有する、②受講者にコース終了時の学習アドバイスとして提示するという試みを行った。①②とも指導上及び学習上の参考として一定程度有効に機能したと思われるが、②については、終了時のみではなくコースの中間地点においても受講者に学習上のアドバイスや改善点を提示し、受講者がコース期間中に自身の課題を意識化し取り組めるように、指導者がその土壌を教室内につくっていくことが必要である。

日本語教育の実施【活動の名称：難民のための参加型日本語教室 ②生活力向上のためのワークショップ&語り合い・学び合いの会】										
目的・目標	・日本語でのコミュニケーションに不自由を感じる段階にある外国人住民も含めて、生活上必要な情報や知識を知り、生活力を向上させることで、定住への備えをすること ・先輩外国人住民が通訳として講座に加わることで、生活上必要な情報や知識を正しく理解し、生活上のスキルを身につけて、それぞれのコミュニティのキーパーソンとして成長すること ・とくに悩みの多い「子どもの育ち」「家族の役割」といったテーマについて、外国人住民、日本人住民が互いの経験を共有し、話し合うことで、多様性を認め合い、自分らしい選択や判断で日々の生活が営めるようになること ・社会や人への関心をもち、理解を深めることにより、日本語学習意欲を高めること									
内容の詳細	●1 全体の構成 ・「WS」は「専門家による講義」とし、「やさしい日本語で書かれた資料」を用意する。 テーマは「心や体の健康」「身の周りのお金」等であった。 ※日本語力の有無に関係なく情報や知識、スキル等が学べ、意見が共有できるように、通訳付きで実施した。 ●2 講座時間等 原則として第一土曜日 12時-13時半・1時間30分×5回、12時-14時・2時間×1回 全9.5時間 ●3 使用教材 文化庁委託事業により作成された教材、作成する教材 ●4 その他 ・企画・準備段階から、先輩外国人住民(日本語能力試験N1合格者)複数名が情報提供側のメンバーとして参加し、学習者のニーズを広く掘り上げる。 ・これまでの実績をもとに、さらに他団体との連携をはかり、ワークショップの他所開催にも積極的に仲介役を担っていった。									
実施期間	平成30年6月2日～平成31年2月23日				授業時間・コマ数		1.5時間 × 5回 = 7.5時間 2時間 × 1回 = 2時間			
対象者	東京近郊に在住する難民、ボランティア(主に日本人)				参加者		総数 108人 (受講者 93人、指導者・支援者等 15人)			
カリキュラム案活用	「カリキュラム案について」に示されている「目的」にそってテーマ選択等を行った。									
使用した教材・リソース	・ワークショップ担当指導者作成のオリジナル教材や、団体が所持しているチラシやパンフレット									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	0	0	0	3人	0	0	0	2人	0	0
	コンゴ民主共和国1人、シリア1人、ミャンマー101人									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年6月2日 10:30-12:00	1.5	認定NPO法人 難民を助ける会会議スペース	14人 ミャンマー10人、 日本3人、 その他1人	■タイトル: お弁当を作ろう	1 お弁当上手になる基本(講座編) ・濃いめの味付け ・しっかり加熱、しっかり冷ます ・いろいろな味、メリハリのある味 ・いろいろな色 2 押し寿司、いなり寿司を作ってみよう (実践編) ・ゆで野菜、いり卵、鳥ミートソース 3 きれいな盛り付け方(実践編)		田辺 恵美子 植木 千津 (当団体のボランティア)	(ビルマ語通訳) なし	
2	平成30年7月7日 15:00-16:30	1.5	認定NPO法人 難民を助ける会会議スペース	6人 ミャンマー人親子6人	■タイトル: 親子で聞く高校進学	1 日本の学校制度 2 色々な高校 3 私立・公立の学費 4 受験制度 5 受験の準備 6 各種奨学金制度		矢崎 理恵 (さぼうと21、 学習支援室 コーディネーター)	(ビルマ語通訳) MA LIA MANG CING KHAI	
3	平成30年8月4日 12:00-14:00 (13:30-14:30は 個別相談の時間)	2	認定NPO法人 難民を助ける会会議スペース	22人 ミャンマー16人、 ペルー2人、 その他2人、 日本人2人	■タイトル: 知っておきたい年金の話	1 公的年金について 2 公的年金の種類と特徴 3 国民年金保険料 4 老齢年金を少しでも増やすには 5 ねんきん定期便とその見方 6 年金Q&A		青山 雅恵 (生活クラブ FPの会、ファイナンシャル プランナー)	(ビルマ語通訳) LIA CING LAM MANG	

4	平成30年9月1日 12:00-13:30	1.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議ス ペース	14人 ミャンマー 11人、 ペルー1 人、 日本人2人	■タイトル: 知っておきたい糖尿 病のこと	1 糖尿病ってなに? 2 日本国内の糖尿病患者 3 三大合併症とほかの合併症 4 予防のために	小泉 哲治 篠塚 拓也 (東京西徳州 会病院)	(ビルマ語通訳) LIA CING LAM MANG
5	平成30年11月10日 12:00-13:30	1.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議ス ペース	24人 ミャンマー 18人、 ベトナム2 人、 日本人3人	■タイトル: 「貯筋」のススメ ～毎日をイキイキと 過ごすための生活習 慣～	1 筋肉量を増やそう 2 たんぱく質の話 3 座ってストレッチ 4 かんたん筋トレ 5 ウォーキングのポイント 6 ウォーキングの実践	吉澤 隆治 (薬樹R&D株 式会社、理学 療法士)	(ビルマ語通訳) LIA CING LAM MANG
6	平成31年2月23日 12:00-13:30	1.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議ス ペース	13人 ミャンマー 8人、 シリア1人、 ペルー1 人、 日本人3人	■タイトル: 思春期の子どもの 向き合い方	1 思春期とは 2 思春期の特徴 3 子どもへの対応 4 子どもが親に望む事 5 カウンセリングの現場で気になる子ども達 6 親自身が自分の人生を見つめ直すチャンス 7 10代の子どものに接する10か条	高橋 えみ子 (メンタルクリ ニック赤とん ぼ、院長)	(ビルマ語通訳) MA LIA MANG CING KHAI (アラビア語通訳) ENEZAN BARAA (スペイン語通訳) 名倉 貴之

(1) 特徴的な活動風景(2回分)

○取組事例①

【第2回 平成30年8月4日】

【テーマ】知っておきたい年金の話

【担当】講師：青山 雅恵（ワーカーズ・コレクティブ生活クラブFPの会）ビルマ語通訳：リア チン ラム マン

【参加者】22人（ミャンマー16人、ペルー2人、その他2人、日本2人）

【目的】

現役世代もこれから働き始める若者世代にも、日本の公的年金制度について正しく理解してもらい、将来に備えてもらう。

【内容】

●お話（1時間30分）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 公的年金について | 2 公的年金の種類と特徴 |
| 3 国民年金保険料 | 4 老齢年金を少しでも増やすには |
| 5 ねんきん定期便とその見方 | 6 年金Q&A |

●個別相談（30分）



○取組事例②

【第3回 平成30年9月1日】

【テーマ】知っておきたい糖尿病のこと

【担当】講師：小泉 哲治（東京西徳州会病院）ビルマ語通訳：リア チン ラム マン

【参加者】14人（ミャンマー11人、コンゴ1人、日本2人）

【目的】

日本での定住歴が長くなるにつれて糖尿病をはじめとした生活習慣病を患う方も少なくない。今回は特に、合併症を発症する恐ろしい病気「糖尿病」について知ること、生活習慣の改善に繋げ、病気予防の意識を高める。また、改善に向けた具体的な行動に移せるようにする。

【内容】

●お話

- | | |
|----------------|------------------------------|
| 1 糖尿病ってなに？ | 2 日本国内の糖尿病患者 |
| 3 三大合併症とほかの合併症 | 4 予防のために（食生活、有酸素運動、生活習慣の見直し） |

⇒本テーマの続編として、2018年11月10日には、『貯筋』のススメ～毎日をイキイキと過ごすための生活習慣～を実施した。

●質疑応答

●個別相談



(2) 目標の達成状況・成果

●各回のワークショップ後に①参加者に対して行ったヒアリングの結果、②講師とコーディネーターの観察 により達成状況・成果を判断する。

本講座の目的・目標として掲げた以下4点について達成状況・成果を述べる。

1. 日本語でのコミュニケーションに不自由を感じる段階にある外国人住民も含めて、生活上必要な情報や知識を知り、生活力を向上させることで、定住への備えをすること

昨年度に引き続き、ニーズの高い「健康」、「生活知識」をテーマに、トピックを変えて実施した。ワークショップでは受講者の多くがミャンマー出身であることを考慮し、ビルマ語通訳を毎回配備した。通訳を準備したため、日本語ができない外国人住民の積極的な参加を促すことができた。また母語で説明を聞くことができたため、情報を正しく理解してもらえたと考える。各テーマにおける特徴的な場面は上記をご参照いただきたい。

2. 先輩外国人住民が通訳として講座に加わることで、生活上必要な情報や知識を正しく理解し、生活上のスキルを身につけて、それぞれのコミュニティのキーパーソンとして成長すること

通訳として関わることで、テーマに対する通訳者自身の知識が高まっており、ワークショップ参加者に通訳するだけでなく、自身が所属するコミュニティにも正しい知識をもって相談にのっている様子を聞いている。

3. とくに悩みの多い「子どもの育ち」「家族の役割」といったテーマについて、外国人住民、日本人住民が互いの経験を共有し、話し合うことで、多様性を認め合い、自分らしい選択や判断で日々の生活が営めるようになること

親世代からの子育てについての相談が増えているため、専門家を講師として呼び出して「学び合い・語り合いの会」を実施した。思春期の子どもとの向き合い方、子どもをよく理解し、良い関係を築くために必要なこと等について教えていただくだけでなく、外国人住民、日本人住民が互いの経験を共有し、自身の悩みや思いを自由に語り合う機会になったと考える。

4. 社会や人への関心をもち、理解を深めることにより、日本語学習意欲を高めること

「年金」等、日本語だけでは理解が困難であるため、今まで知らずにいたことを講師の先生から詳しく聞く中で、それぞれに興味関心が高まったように感じている。ワークショップ参加者からは、「年金に加入していることの意味、年金の役割が分かった。」といった感想や、「自分の子どもには早くから年金を納付するように話したい。」と話す親世代の方もいた。また、様々な事情により年金を納付できずにいた方が、「今からでも年金に加入したいと思う。手続きを教えてください。」と相談に来られるなど、自分たちを守る社会制度への関心の高まりを感じることができた。

文化庁委託事業の助成をもとに、継続的にワークショップを実施することができているおかげで、ワークショップ実施を検討している他の外国人支援団体からの問い合わせにも数件対応してきた。実施する際の心構えや、講師選びのポイント等をお伝えする機会ともなっている。

(3) 今後の改善点について

今年度の事業を通して、改善点、また今後の活動に活かしていきたい点は以下の通りである。

・ワークショップ開催を企画している関係団体への情報共有

今年度も、公益財団法人 かながわ国際交流財団を始め、複数の関係団体から問い合わせがあった。今までのワークショップの実績をまとめておき、適宜情報共有をし、また講師の方へのご紹介をする等、他地域でのワークショップ実施が円滑に進むよう協力していきたいと考える。

・「語り合い・学び合い」形式での実施をより一層検討

これまで、講師をお呼びしてお話を聞く形でのワークショップを多数実施してきた。その質の向上をはかる一方で、これからは、外国人住民も日本人住民も、市民同士として互いに生活に関する様々な悩みを共有し、自由に話せる場をより多く設けたいと思う。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称:地域日本語教室ボランティアのためのパワーアップ研修 ①「ブラッシュアップ講座」】

目的・目標	・地域日本語教室で活動するボランティアが、「生活者としての外国人」や「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語教育支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになることをねらいとしている。本講座がネットワーク醸成の契機となることも期待した。 ・「地域日本語教育人材」の養成について、より良い研修のあり方について検討できるための講座の具体的な事例を提示することも講座実施の目的としてあげられる。									
内容の詳細	●「振り返ろう！にほんご支援～日々の活動をブラッシュアップするには～」をテーマに実施。 ●これまで実施してきた講座の総括的な意味もあり、「日本語を支援する際のヒント」と「地域の日本語支援を概観する」という2点から講座を設計した。参加者皆で、共に学び、共に考える「参加」型の講座とした。具体的には以下の通り。 1.「日本語を支援する際のヒント」 ・発音・漢字・読む・話す、といった項目別に指導のスキルを養成した。 ・インターネットや身近な素材をどう活用したらよいか情報を提供すると同時に実践へとつなげた。 ・教室で行っている（行える）であろう「活動」の具体的な進め方と留意点を提示した。 2.「地域の日本語支援の意義」 ・多文化共生社会における地域の日本語支援の在り方を考えた。									
実施期間	平成 30年 10月 14日 ～ 平成 31年 2月 17日				授業時間・コマ数		パワーアップ講座全体時間 合計64時間 ★【ブラッシュアップ講座】1回2.5時間×8回＝20時間 【活動基礎講座】1回4時間×5回×2講座＝40時間 【理解を深める講座】1回4時間×1回＝4時間			
対象者	地域日本語教室でボランティアとして活動中の方				参加者		総数 38 人 （受講者 30人、指導者・支援者等 8人） ※受講者は8回中5回以上出席した人数			
カリキュラム案活用	各講座の中で、カリキュラム案を直接または間接的に利用した。 とくに①「カリキュラム案について」、②「ガイドブック」、③「教材例集」を参考とした。									
使用した教材・リソース	教師作成のオリジナル教材・『伝わる発音が身につく！にほんご話し方トレーニング』アスク・『音声を教える』国際交流基金・『日本語教師のための実践・漢字指導』くろしお・『学年別漢字配当表』教育出版・『にほんご宝船 いっしょに作る活動集』アスク・「ひらひらのひらがなめがね」他インターネットサイト・『対話とプロフィシェンシー』凡人社・『初級で読めるトピック25』スリーエーネットワーク									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内 訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1人	0	0	0	0	0	0	0	0	29人

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年10月14日(日) 13:30～16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	25	「発音」、どうやって?	・日本語らしさ ・リズムとイントネーション ・フットと拍 ・発音・アクセント	荻嶋初栄	講義補助者:長崎清美
2	平成30年11月11日(日) 13:30～16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	31	「漢字」、どうやって?	・漢字を使ったアイスペーク ・生活に必要な漢字 ・実際に使用されている漢字を確認しポスターにまとめる(グループ) ・情報共有	濱川祐紀代	講義補助者:奥原淳子
3	平成30年11月18日(日) 13:30～16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	31	「読む」、どうやって?	・「読む」とは、どういう行為か? ・2つの素材を使って、「読む」活動を考える	奥原淳子	講義補助者:長崎清美
4	平成30年12月9日(日) 13:30～16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	26	「話す」、どうやって?	・ウォーミングアップおしゃべり ・「話す」活動を振り返る ・「話せる」って何? ・さまざまな「話す」活動を考える ・「話す」力を測定する	長崎清美	講義補助者:奥原淳子
5	平成30年12月16日(日) 13:30～16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	26	インターネットを活用するには?	・インターネットを使った支援のイメージ ・自治体のHPを確認する ・授業で使えるサイトやアプリの紹介 ・実践例の紹介 ・Quizletを作ってみる	池田ゆかり	講義補助者:長崎清美
6	平成31年1月20日(日) 13:30～16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	26	身近な素材を日本語支援に	・身近にある素材とは? ・素材の選び方(対象者による違い) ・支援形態による素材の違い(グループか個別か) ・マンツーマン支援の具体例 ・考えてみよう(素材とその活用の方法)	山形美保子	講義補助者:奥原淳子
7	平成31年2月3日(日) 13:30～16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	28	活動を日本語支援に	・活動実践の紹介 (料理の会・川柳教室・スーパへGo! 等々) ・実践から見てきたこと ・活動「街歩き」、その実践と気づき	矢崎理恵	講義補助者:長崎清美

8	平成31年2月17日(日) 13:30～16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	27	改めて考える 「地域の日本語支 援の意義」	・日本の地域の多言語・多文化化の状況からみ えてくること ・多文化理解につながる交流活動の基盤となる 言語生活 ・多文化共生社会と言語生活支援 ・展望	野山広	講義補助者:奥原淳子
---	------------------------------	-----	------------------------------	----	-----------------------------	--	-----	------------

(1)特徴的な活動風景(2回分)

○取組事例①

【第2回 30年11月11日】

●講師:濱川祐紀代 補助者:奥原淳子

●ねらい:地域の日本語教室の学習者が必要な漢字は何か、また、それをどう指導したらいいかを学ぶ

●内容

※受講者は8つのグループ(各3～4名)に分かれて着席

・漢字を使ってアイスブレイク!

・「生活に必要な漢字」とは何かを考える

・「トイレ・自動販売機」等で実際に使われている漢字を確認する(グループワーク)

・確認した漢字をポスターにまとめる

・各グループがまとめたポスターを見て情報を共有する

●所感

「自動販売機(例)」にはどんな漢字が使われているのだろうか。単に机上で考えるのではなく「実際に見てみよう」というタスクが新鮮だった。受講者たちの表情がぱっと輝いた瞬間である。アンケートに「自らの身体を使って勉強できたので、身についた」という記述があったが、まさに受講者の感想を代表していると思う。「単語」になりがちな漢字学習を楽しくするヒントや考え方が提示された。



○取組事例②

【第3回 30年11月18日】

●講師:奥原淳子 補助者:長崎清美

●ねらい:「読む」行為の意味、および、具体的な「読む」活動の進め方を学ぶ

●内容

※受講者は8つのグループ(各3～4名)に分かれて着席

・練習問題を通して、「読む」行為を再考する(読むことが能動的行為であることを学ぶ)

・「読む」活動の基本的な流れをつかむ(大きく「読む前」→「読む」→「読んだ後」)という枠で考える)

・素材1を使って、「なぜ読むか・どう読むか・読後の活動」をできるだけたくさん考えてみる

・素材2を使って、「読む活動」を計画してみる → 各グループで共有する

●所感

受講者から「読む活動」といって、語彙や文法に注意が向かいがちであったが、内容そのものを楽しむ・理解することの大切さを感じた」という趣旨の感想がいくつか見られた。支援の現場では「表現や語彙の練習のために読む」ことが多々見受けられる。学習者の日本語レベルとも関連するが、読解は文法や語彙学習だけのためのものではない。内容そのものを楽しむ、読解力を養成する、ということを多少でも意識することで、サポートの幅も広がるだろう。課題としては、関連資料や教材等の紹介をすること、練習素材に「学校からのお知らせ」等、身近なものを取り扱うことを挙げたい。



(2) 目標の達成状況・成果

今回は、ボランティアとして活動中の方々が、もう一度、日々の活動を振り返り、活動をブラッシュアップすることを目指し、講座を展開した。発音や漢字など日本語そのものに関する振り返り、インターネットや身近な素材をどう活用できるか実際に体験してみる、教室活動の実践例や、地域に暮らす外国人の実態を知る等、幅広い内容を扱った。

アンケートにより、各回および全体を通しての満足度や意見を聴き、目標の達成状況と成果を確認した。結果は以下の通りである。アンケートで回答者全員が、講座全体に対して、「大変有意義だった」「有意義だった」と答えたことから、講座に対する満足度が高かったことがわかる。以下に、受講者の講座に対する意見・感想として、アンケートのコメントの一部を記す。

					単位%
回	大変 有意義 だった	有意義 だった	どちらとも 言えない	あまり 有意義では なかった	全く 有意義では なかった
1	63	33	4	0	0
2	54	43	3	0	0
3	60	40	0	0	0
4	50	50	0	0	0
5	28	56	12	4	0
6	61	27	8	4	0
7	63	37	0	0	0
8	83	17	0	0	0
全体	44	56	0	0	0

第1回(「発音」、どうやって?)
「普段、リズムやイントネーションについて教えたことがないので、やってみたいと思った。」「全体を『への字型』にすることで『日本語らしく』聞こえることなど、昔の養成講座では習わなかったことを知った。」

第2回(「漢字」、どうやって?)
「楽しく漢字が覚えられるゲームがよかった。」「学習者の周りでどんな漢字が使われているか、実際に物を見て確認することができた。」「子どもへの漢字教育と違って、相手が必要なものをまず教えるということがわかった。」

第3回(「読む」、どうやって?)
「読むために、頭の中でどんな作業が行われているかがわかった。」「具体的な教材を使って自分自身が体験できてよかった。」

第4回(「話す」、どうやって?)
「テキストの会話文+αの必要性について気付いた。」「具体的な教材の紹介がよかった。」

第5回(インターネットを活用するには?)
「スマホ初心者のため入口が難しかった。」「Quizletのアプリはすぐに使ってみた。」

第6回(身近な素材を日本語支援に)
「素材探しの視点がわかった。」「講師の方の実際の活動の具体例や、周りの方の話がたくさん聞けてアイデアがもらえた。」

第7回(活動を日本語支援に)
「教室での活動がマンネリになりがちだったので、新しいアイディがもらえた。」「語学を教えるだけでなく、支援者と学習者のコミュニケーションの大切さを知った。」

第8回(改めて考える「地域の日本語支援の意義」)
「今まで日本語の教え方に気を取られていたが、視野が広がった。」「日本で暮らしている外国人の方たちがどんな悩みを抱えているのか具体的にわかった。」

また、以下の点も成果として挙げたい。

一つは、本講座が現在活動中のボランティアのスキルアップを狙いとしている点である。「地域日本語教室のための日本語学習支援の講座」には、活動を始めたばかりのボランティアを対象にしたものは散見するが、活動中のボランティアを主な対象とする講座はあまり見られない。その意味でも、意義ある講座であると考え。

もう一つは、地域で活動するボランティアにとって、自身の活動にリンクさせやすい内容が提供できたという点である。本事業をこれまでも実施してきた中で、受講者から「現場ですぐに使えるヒント」「どう支援したらいいかのヒント」といった要望が挙がっていた。それに応える形で講座を設計したことで受講者の満足度が高まったと考える。

(3) 今後の改善点について

課題として以下の2点を挙げる。

1. 各講師との事前打ち合わせ
今回は、毎回違う講師が講座を担当した。講師はそれぞれの内容についてはスペシャリストであるが、全員が地域の教室を活動の場としているわけではない。そのため、「面白かったが、うちの教室ではすぐには使えない」という感想も聞かれた。さまざまな教室から参加があるので、すべての教室にフィットする内容を提供することは難しいが、事前の打ち合わせの際に、本講座の意義、参加者のバックグラウンドなどをもっと共有しておくことで、講師の方の準備にも、役立つ情報が提供できたのではないかなと思われる。

2. コース全体のコーディネート
上記とは反対に、地域の教室を十分に意識して準備をしたがゆえに、いくつかの回で同じような情報が提供されることもあった。違った講師から違った切り口で取り上げられるので、無駄なものではないのだが、参加者によっては重複していると感じた人もいたかもしれない。講座は1回完結ではあるが、8回で1コースなので、運営スタッフが、コース全体の目指すもの、各回の役割、また各回の繋がりをきちんと設定し、それを講師に的確に示す必要があったと思われる。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:地域日本語教室ボランティアのためのパワーアップ研修 ②「活動基礎講座」】																							
目的・目標	・地域日本語教室で活動を始めてまもないボランティアが、「生活者としての外国人」や「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語学習支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになることをねらいとしている。本講座がネットワーク醸成の契機となることも期待した。 ・「地域日本語教育人材」の養成について、より良い研修のあり方について検討できるための講座の具体的な事例を提示することも講座実施の目的としてあげられる。																						
内容の詳細	●「地域日本語教室ボランティアのための活動基礎講座」のタイトルにて実施 ●全体の構成 日本語教室ボランティアとして活動するために備えておきたい日本語についての知識や活動の心構えについて学ぶ「参加型講座」とした ●講座時間等 5月～9月、11月～3月の第1日曜日 10時～12時、13時～15時・4時間／回・全5回 20時間を2期 ●テーマ等 【講座全体案】※春夏教室は B を午前（10 時-12 時）・A を午後（13 時-15 時） ※秋冬教室は A を午前（10 時-12 時）・B を午後（13 時-15 時）																						
	<table><tr><th>【A】 キーワード「多文化共生」「外国人住民」</th><th>【B】 キーワード「地域日本語教育」「実践」</th></tr><tr><td>A 1 多文化共生の社会の中で、地域日本語教室に期待される役割（「多文化共生社会日本」の現状や課題を知り、地域日本語教室に期待される役割を考える）</td><td>B 1 「地域での日本語教育の実践」に学ぶ（地域の日本語教育に関わる方の実践を聞き、活動の広がりや面白さ、課題を共に考える）※できる限り、学習当事者からもお話をいただく</td></tr><tr><td>A 2 「日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは？」（「在留資格」についての基本知識を学び、在留資格により日本に暮らす「外国人」にどのような可能性と拘束が生ずるのかを知る）</td><td>B 2 「●●への日本語教育を知る」（「特定分野の学習者を対象とした日本語教育（日本語学校、技能実習生、介護人材など）」を知り、地域日本語教室の果たすべき役割を考える）</td></tr><tr><td>A 3 「異文化を理解する」とは？（参加者皆でワークに参加し、「異文化を理解する」ということ、「異文化の中に身をおく」ということを実感をもって学ぶ」）</td><td>B 3 「やさしい日本語」って？（外国人とのやりとりには必須の「やさしい日本語」について、その必要性を確認しつつ、「やさしい日本語力」を身につける）</td></tr><tr><td>A 4 「上手な聴き手になる」には？（「聴くこと」の専門家からお話を聞き、日本語学習支援に必要な「聴く力」について、その必要性を知り、「聴く力」の基礎を学ぶ）</td><td>B 4 「日本語学習支援のきそきそ・その 1」（地域日本語教室での活動を楽しみ、有意義な活動ができるよう、「日本語」について学び、「日本語学習支援」について考える）</td></tr><tr><td>A 5 「外国人からの相談を受けたい？」（「外国人からの相談にどう対応するか、しないか」を考え、あわせて外国人住民の「相談先」や「援助所」の情報を得る）</td><td>B 5 「日本語学習支援のきそきそ・その 2」</td></tr></table>											【A】 キーワード「多文化共生」「外国人住民」	【B】 キーワード「地域日本語教育」「実践」	A 1 多文化共生の社会の中で、地域日本語教室に期待される役割（「多文化共生社会日本」の現状や課題を知り、地域日本語教室に期待される役割を考える）	B 1 「地域での日本語教育の実践」に学ぶ（地域の日本語教育に関わる方の実践を聞き、活動の広がりや面白さ、課題を共に考える）※できる限り、学習当事者からもお話をいただく	A 2 「日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは？」（「在留資格」についての基本知識を学び、在留資格により日本に暮らす「外国人」にどのような可能性と拘束が生ずるのかを知る）	B 2 「●●への日本語教育を知る」（「特定分野の学習者を対象とした日本語教育（日本語学校、技能実習生、介護人材など）」を知り、地域日本語教室の果たすべき役割を考える）	A 3 「異文化を理解する」とは？（参加者皆でワークに参加し、「異文化を理解する」ということ、「異文化の中に身をおく」ということを実感をもって学ぶ」）	B 3 「やさしい日本語」って？（外国人とのやりとりには必須の「やさしい日本語」について、その必要性を確認しつつ、「やさしい日本語力」を身につける）	A 4 「上手な聴き手になる」には？（「聴くこと」の専門家からお話を聞き、日本語学習支援に必要な「聴く力」について、その必要性を知り、「聴く力」の基礎を学ぶ）	B 4 「日本語学習支援のきそきそ・その 1」（地域日本語教室での活動を楽しみ、有意義な活動ができるよう、「日本語」について学び、「日本語学習支援」について考える）	A 5 「外国人からの相談を受けたい？」（「外国人からの相談にどう対応するか、しないか」を考え、あわせて外国人住民の「相談先」や「援助所」の情報を得る）	B 5 「日本語学習支援のきそきそ・その 2」
	【A】 キーワード「多文化共生」「外国人住民」	【B】 キーワード「地域日本語教育」「実践」																					
	A 1 多文化共生の社会の中で、地域日本語教室に期待される役割（「多文化共生社会日本」の現状や課題を知り、地域日本語教室に期待される役割を考える）	B 1 「地域での日本語教育の実践」に学ぶ（地域の日本語教育に関わる方の実践を聞き、活動の広がりや面白さ、課題を共に考える）※できる限り、学習当事者からもお話をいただく																					
A 2 「日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは？」（「在留資格」についての基本知識を学び、在留資格により日本に暮らす「外国人」にどのような可能性と拘束が生ずるのかを知る）	B 2 「●●への日本語教育を知る」（「特定分野の学習者を対象とした日本語教育（日本語学校、技能実習生、介護人材など）」を知り、地域日本語教室の果たすべき役割を考える）																						
A 3 「異文化を理解する」とは？（参加者皆でワークに参加し、「異文化を理解する」ということ、「異文化の中に身をおく」ということを実感をもって学ぶ」）	B 3 「やさしい日本語」って？（外国人とのやりとりには必須の「やさしい日本語」について、その必要性を確認しつつ、「やさしい日本語力」を身につける）																						
A 4 「上手な聴き手になる」には？（「聴くこと」の専門家からお話を聞き、日本語学習支援に必要な「聴く力」について、その必要性を知り、「聴く力」の基礎を学ぶ）	B 4 「日本語学習支援のきそきそ・その 1」（地域日本語教室での活動を楽しみ、有意義な活動ができるよう、「日本語」について学び、「日本語学習支援」について考える）																						
A 5 「外国人からの相談を受けたい？」（「外国人からの相談にどう対応するか、しないか」を考え、あわせて外国人住民の「相談先」や「援助所」の情報を得る）	B 5 「日本語学習支援のきそきそ・その 2」																						
実施期間	【春夏の回】 平成 30 年 6 月 17 日 ～ 平成 31 年 10 月 21 日 【秋冬の回】 平成 30 年 11 月 25 日 ～ 平成 31 年 3 月 3 日			授業時間・コマ数	パワーアップ講座全体時間 合計64時間 【ブラッシュアップ講座】1回2.5時間×8回＝20時間 ★【活動基礎講座】1回4時間×5回×2講座＝40時間 【理解を深める講座】1回4時間×1回＝4時間																		
対象者	地域日本語教室のボランティアに関心のある方、活動を始めたばかりの方			参加者	総数 79 人 （受講者56人 うち修了者12人、指導者・支援者等 11人） ※受講者は10回中3回以上出席した人数 ※修了者は全10回の講座を全て履修した者																		
カリキュラム案活用	各講座の中で、カリキュラム案を直接または間接的に利用した。 とくに①「カリキュラム案について」、②「ガイドブック」、③「教材例集」を参考とした。																						
使用した教材・リソース	教師作成のオリジナル教材、「レヌカの学びー自分の中の異文化に出会う」（開発教育協会）																						
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本													
	1人	0	0	0	0	0	0	0	0	55人													
養成・研修の実施内容（春夏の回）																							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名		補助者・発表者・会議出席者等名													
1	平成30年6月17日（日） 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	27	「多文化共生社会日本の今ー地域日本語教室の役割を考えながらー」	日本の多文化共生に関する動き（在住外国人である講師の体験を交え、講師執筆の論文や雑誌記事をくりながら講義が展開された）		アンジェロ・イシ															
2	平成30年6月17日（日） 13:00～15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	30	「群馬県館林市の女性のための日本語教室」	(1)日本国際社会事業団（ISSJ）とは (2)群馬県館林市について (3)「女性のための日本語教室」について (4)成果と課題		近藤花雪		発表者：MA LIA MANG CING KHAI													
3	平成30年7月1日（日） 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	29	「日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは？」	(1)自己紹介 (2)問題点・疑問点の把握 (3)在留資格について (4)支援、アドバイスの際の注意点 (5)新しい入管法について		東京都行政書士会品川支部 長岡由剛															

4	平成30年7月1日(日) 13:00～15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	27	「日本語学校生への 日本語教育を知る」	(1)留学生について (2)日本語教育をめぐる最近の動向 (3)日本語学校の学習者について (4)日本語学校の仕事について	一条初枝	発表者1:アン ソンウン 発表者2:ナーラカ ダヤーナンダ
5	平成30年8月12日(日) 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	30	「「異文化を理解する」って？」	(1)さぼうと21の学習支援室について (2)「レヌカの学び」を使った参加型学習の体験 (3)まとめ	田中美穂子	
6	平成30年8月12日(日) 13:00～15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	27	「「やさしい日本語」」	(1)基礎データ(在住外国人の使用言語他) (2)話し言葉のコツ編 (3)文章のコツ編	岩田一成	
7	平成30年9月2日(日) 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	26	「上手な聴き手になるには？」	(1)自己/他己紹介 (2)言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション (3)「きくこと」に集中する際に留意すること (4)2種類の質問 (5)言葉の二面性への気づき (6)「承認」を伝える	大瀧敦子	
8	平成30年9月2日(日) 13:00～15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	25	「日本語学習支援の きそのきそ・その1」	(1)対話型の支援方法 (2)外国人が日本で暮らすために必要なことば (3)おしゃべり活動がなぜよいのか？	岩田一成	
9	平成30年10月21日 (日) 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	20	「外国人からの相談 を受けたら？」	(1)ワーク「身近な外国人からこんな相談・・・あなたならどうする？」 (2)「外国人相談」とは (3)外国人相談の最前線としての地域日本語教室 (4)ふりかえり・意見交換	新居みどり	
10	平成30年10月21日 (日) 13:00～15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	21	「日本語学習支援の きそのきそ・その2」	(1)「日本語ボランティア教室調査結果」から考える教室の目的 (2)日本語教育の枠組み・アチーブメントとプロフィシエンシーについて考える (3)現実のコミュニケーションと日本語教育の規範 (4)語彙の指導を考える	岩田一成	

養成・研修の実施内容(秋冬の回)

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年11月25日 (日) 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	21	「多文化共生社会日本 の今一地域日本語教室 の役割を考えながら」	(1)日本の移民政策について (2)韓国の移民政策について (3)移民政策をどう理解するか (4)多文化共生の発展 (5)生活実践としての多文化共生	宣元錫	
2	平成30年11月25日 (日) 13:00～15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	21	「日本語学習と相互 理解の両立をめざす 教室活動」	(1)千葉市内の日本語教育 (2)ちば多文化協働プロジェクトについて (3)対話活動をやってみる (4)まとめとQ&A	萬浪絵理	
3	平成30年12月2日(日) 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	13	「日本に暮らす外国人 人にとっての在留資格 とは？」	(1)自己紹介 (2)問題点・疑問点の把握 (3)在留資格について (4)支援、アドバイスの際の注意点 (5)新しい入管法について	東京都行政書士会品川支部 長岡由剛	
4	平成30年12月2日(日) 13:00～15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	11	「「技能実習生への 日本語教育」を知る」	(1)データで見る技能実習生 (2)技能実習生と日本語 (3)まとめとQ&A	黒羽千佳子	
5	平成31年1月6日(日) 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	17	「「異文化を理解する」 って？」	(1)さぼうと21の学習支援室について (2)「レヌカの学び」を使った参加型学習の体験 (3)まとめ	田中美穂子	
6	平成31年1月6日(日) 13:00～15:00	2	16	16	「「やさしい日本語」」	(1)基礎データ(在住外国人の使用言語他) (2)話し言葉のコツ編 (3)文章のコツ編	岩田一成	
7	平成31年2月10日(日) 10:00～12:00	2	目黒さつきビル 会議室	14	「上手な聴き手になる には？」	(1)自己/他己紹介 (2)言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション (3)「きくこと」に集中する際に留意すること (4)2種類の質問 (5)言葉の二面性への気づき (6)「承認」を伝える	大瀧敦子	
8	平成31年2月10日(日) 13:00～15:00	2	目黒さつきビル 会議室	14	「日本語学習支援の きそのきそ・その1」	(1)対話型の支援方法 (2)外国人が日本で暮らすために必要なことば (3)おしゃべり活動がなぜよいのか？	岩田一成	

9	平成31年3月3日(日) 10:00～12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議ス ペース	18	「外国人からの相談 を受けたら？」	(1) ワーク「身近な外国人からこんな相談・・・あ なたならどうする？」 (2) 「外国人相談」とは (3) 外国人相談の最前線としての地域日本語教 室 (4) ふりかえり・意見交換	新居みどり	
10	平成31年3月3日(日) 13:00～15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議ス ペース	18	「日本語学習支援の きそのきそ・その2」	(1) 文法の話 文法を勉強する順番 (2) 指導法	岩田一成	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 平成31年2月10日】

- 講師: 大瀧敦子氏
- ねらい: 日本語学習支援に必須の「きく力」について、その必要性を知り、「きく力」の基礎を身につける
- 内容
 - 自己／他己紹介
二人一組なって、相手に一人3分ずつの自己紹介→「相手の印象」を付け加えての他己紹介
 - 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
 - 「きくこと」に集中する際に留意すること
 - 2種類の質問
 - 言葉の二面性→ペア活動
 - 「承認」を伝える

●所感

「感情を汲み取ることは難しい。しっかりと相手の話を聴いて、意図を汲み取ることに注意したい」というような内容の感想が多く見られた。もともと、地域日本語教室のボランティア向けの「きく」講座は他でもあまり例がなく、講師もニーズの汲み取りなどに苦労する面があるようだが、回を重ね、地域日本語教室における「きく」講座として内容の充実がみられるようになっていく。



○取組事例②

【第5回 平成31年3月3日】

- 講師: 新居みどり氏
- ねらい: 学習者からの相談にどう対応するか(しないか)を考え、あわせて外国人住民の「相談先」や「拠り所」の情報を知る
- 内容
 - ワーク「身近な外国人からこんな相談・・・あなたならどうする？」(グループワーク1、グループワーク2)
 - 「外国人相談」とは
 - 外国人相談の最前線としての地域日本語教室
 - ふりかえり・意見交換

●所感

同講師による「活動基礎講座」での講座は初回から3回を数える。毎回、受講者は変わるが、どの回でも一様に、受講者からは「安堵」の表情が感じられる。地域の教室で、「何でも私たちボランティアが対応しなければならない」というような使命感を知らず知らずもってしまいがちだが、「自分がどこまでの支援をするかは自分で決めてよい」と言われることでほっとし、「相談先」について様々な情報を得て、学習者をただ放り出すのではなく、より適切な支援に結び付けられることを知って安心する受講者が多い。



(2) 目標の達成状況・成果

本講座の大きな目標は、「活動を始めて間もないボランティアが、日本語学習支援について知っておくべき事柄、活動に対する姿勢、日本語についての基礎知識等を活動の初めの段階で学ぶことのできる場を継続的に提供する」ということであつた。2017年度、2018年度と無事開催を継続できたこと、担当する講師が講座の意義を理解し、積極的に講座に関わって下さっていることから、量の面でも質の面でも、目標は十分に達成できていると判断する。

各回に実施したアンケートの結果は下記の通りである。(春夏講座、秋冬講座をあわせて、テーマごとにまとめている)

			大変役に立った	役に立った	どちらでもない	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった
春夏	第1回	多文化	14	11	3	0	0
秋冬	第1回	多文化	14	5	0	0	0
春夏	第1回	地域	5	19	1	0	0
秋冬	第1回	地域	6	2	0	0	0
春夏	第2回	在留資格	11	16	1	0	0
秋冬	第2回	在留資格	6	4	0	0	0
春夏	第2回	特定ジャンル	10	16	1	0	0
秋冬	第2回	特定ジャンル	6	5	0	0	0
春夏	第3回	異文化	14	13	0	0	0
秋冬	第3回	異文化	11	6	0	0	0
春夏	第4回	きく	12	10	0	0	0
秋冬	第4回	きく	10	3	1	0	0
春夏	第5回	相談	11	4	2	0	0
秋冬	第5回	相談	14	4	0	0	0
春夏	第3回	やさしい日本語	21	11	0	0	0
秋冬	第3回	やさしい日本語	12	4	0	0	0
春夏	第4回	日本語基礎①	14	7	0	0	0
秋冬	第4回	日本語基礎①	10	4	0	0	0
春夏	第5回	日本語基礎②	9	9	1	0	0
秋冬	第5回	日本語基礎②	12	5	0	0	0
春夏	第2回	当事者登壇	9	14	0	0	0

アンケートの結果から、全体的にどのテーマもおおむね好評であり、とくに「やさしい日本語」についての評価が高い。「在留資格」については、受講者により若干評価が分かれるようだ。「特定ジャンルの日本語学習者」「地域日本語教室の実践」などは、自身の教室の活動とつながりが見えるかどうかによって、評価にばらつきがあるようだ。

(3) 今後の改善点について

課題として以下の2点を挙げる。

1. 講座内で紹介する「地域日本語教室」「特定分野の日本語学習者への日本語教育」

(2)に記したとおり、「地域日本語教室」や「特定分野の日本語学習者への日本語教育」については、講座受講者が「身近」に感じられることで、講座への関心の寄せ方も違ってくるように思われる。どのような教室、どのような分野の学習者への日本語教育を紹介し、考える機会を提供するかについて検討が必要である。

2. 当事者の発信、教材の紹介

アンケートの結果から、「当事者の発信」を期待する声が見られる。また、これまでの講座では、日本語教材についてとりあげることがなかったが、活動をする上で教材選びに苦勞するという声を受講者の皆さんからよく耳にする。これらをどのように講座に取り入れていくか、今後しっかりと検討していく必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称:地域日本語教室ボランティアのためのパワーアップ研修 ③「理解を深める講座」】

目的・目標	・より多くの方に「難民」「多文化共生」「地域日本語教室」への関心をもってもらうこと ・「地域日本語教育人材」の養成について、より良い研修のあり方について検討できるための講座の具体的な事例を提示すること。									
内容の詳細	●「日本につながった私たちの今～10代・20代を駆け抜けて～」をテーマに実施。 ●講座時間等 平成30年10月28日（日）13時～17時 ●全体の構成 ○ 11時～12時30分 プレ講座 - 「Roots of many colors」(監督:宮ヶ迫ナンシー理沙)等上映 ○ 13時～16時30分 4人の登壇者による「発信」と「座談会」 日本につながった(外国につながる)小説家温又柔氏(台湾につながる)、フォトグラファー高部心成氏(中国帰国者三世)、映像制作会社マネージャー谷川ハウ氏(ベトナムにつながる・インドシナ難民2世)、音楽関連出版社社員宮ヶ迫ナンシー理沙氏(日系ブラジル人二世)を講師に迎え、2名ずつ登壇、「どんな風に自身の「これまで」をとらえ、どんな風に「今」を生きているのか」をテーマとしてお話をいただいた。 その後、会場にいる高校生から、様々な疑問、悩み、質問を投げかけてもらい、登壇者と高校生の間でのやりとりを展開した。 ○16時30分～17時 4人の「発信」を受け止めて 明治学院大学副学長・社会学部教授 野沢慎二氏 ※当日、会場内には、高部心成氏の写真及び写真集、温又柔氏著書を展示した									
実施期間	平成 30年 10月 28日（日）				授業時間・コマ数		パワーアップ講座全体時間 合計64時間 【ブラッシュアップ講座】1回2.5時間×8回＝20時間 【活動基礎講座】1回4時間×5回×2講座＝40時間 ★【理解を深める講座】1回4時間×1回＝4時間			
対象者	地域日本語教室や「多文化共生」に関心のある方				参加者		総数 64 人 (受講者 -人, 指導者・支援者等 -人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案の目的に見られる「相互尊重」をベースとして実施。 「生活者としての外国人」に対する社会の関心を高めること、深めることにより、カリキュラム案活用の土壌が生まれることを期待。									
使用した教材・リソース	講師作成の資料、公開可能な有益資料(当団体姉妹団体作成の作文集等)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	0	0	0	1人	0	0	0	0	0	59人
	その他4人 ※国籍についての確認をしていないため、数字は確かなものではない。									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年10月28日 (日) 13時～17時	2	明治学院大学 白金キャンパス 1201教室	64	「日本につながった私たちの今～10代・20代を駆け抜けて～」	・4人の登壇者による「発信」と「座談会」 ・4人の発信を受けとめて		温又柔 高部心成 谷川ハウ 宮ヶ迫ナンシー理沙 野沢慎司		

(1) 特徴的な活動風景(1回分)

○取組事例①

●講座時間等

平成30年10月28日(日)13時～17時

●全体の構成

○11時～12時30分 プレ講座 - 「Roots of many colors」(監督:宮ヶ迫ナンシー理沙)等上映

登壇者4名は、小説、写真、映像等で20代から発信をしてきた方々であったことから、できるだけ、その作品を来場者に知っていただき、理解を深めてもらえるよう講座開始前に自由参加の形で、映画上映や展示を行った。

○13時～16時30分 4人の登壇者による「発信」と「座談会」

登壇者4名は、2名ずつ登壇、「どんな風に自身の「これまで」をとらえ、どんな風に「今」を生きているのか」をテーマとしてお話をいただいた。必要に応じて2名が互いに言葉を補い合いながら、お話下さり、そのやりとりも興味深いものであった。

その後、会場にいる高校生3名から、様々な疑問、悩み、質問を投げかけてもらい、登壇者と高校生の間でのやりとりを展開した。今回はあえて他の来場者からの質問は受けず、外国につながる方々だけでお話を進めてもらった。

○16時30分～17時 4人の「発信」を受け止めて

明治学院大学副学長・社会学部教授 野沢慎二氏に全体総括、感想を述べていただき、閉会とした。

※当日、会場内には、高部心成氏の写真及び写真集、温又柔氏著書を展示した



(2) 目標の達成状況・成果

「より多くの方々に「難民」「多文化共生」「地域日本語教室」への関心をもってもらうこと」を目標として据えている「理解を深める講座」であるが、登壇した4名がそれぞれ個性豊かにそれぞれのことで自らの過去、現在、抱く想いを発信してくださり、その発信力には圧倒的なものがあった。また、様々な悩みを抱える3名の高校生も、先輩である4名の登壇者に率直に自身の想いを吐露し、疑問を投げかけ、非常に中身の濃いやりとりが展開された。

来場者のアンケートは、「大変満足している」22名、「満足している」8名であった。

高校生からシニア世代まで、幅広い年代の方々にお越しいただいたことも大きな成果と考えられる。アンケートは登壇者4名の生きる姿勢に刺激を受けたというもの、質問者3名の高校生にエールをおくるものなど、多岐にわたるが、どの感想も、自身の想いと彼らからの発信を重ねあわせ、自分ごととして発信を受けとめている点が大きな特徴ではないかと思われる。

「全体構成」については以下のような感想が見られた。

・PPTなどに簡潔にまとめられた発表ではなく、「語り」でつながっていく構成が素晴らしかったです。じっくりと話を聞くことができました。
・普通のシンポジウムだとお話が短くていつも核心まで触れる手前で終わってしまいますが、今日は心ゆくまでそれも登壇者主導で話をさせていただいたのがとても良かったと思います。

来場した若い世代の感想も興味深いものであった。

・大学生の私からすれば、皆さんはとても「すごい」方々だと思っていました。(今でもですが)ただ、皆さんのお話を聞くと、自分も共感できるようなことで悩んでいたりして、(勝手にながら)親近感を覚えました。私は今回、多文化共生について学びを深めるためにお話を聞きに来ましたが、これから生きていく上での教訓も授かれたと思います。皆さんに心から感謝します。

・貴重な講演ありがとうございました！私は13才の時に親に呼び寄せられて日本に来ました。今年で8年目になります。思春期の時、今でもそうですけど、自分のアイデンティティについてすごく悩んでいます。自分自身は自分のことを中国人だと思いますが、周りからはあまりそう思われていないようです。そこにある不一致で違和感をずっと持っています。たまに自分の「中国のルーツ」と「自分」は名前だけで、分かりやすくつながっているように思えます。もし通称名を使ったら、自分のアイデンティティはどんどん崩壊していくような気がします。自分の悩みの答えは結局自分で見つけていかなくてはならなくて、たくさん話を聞いて、たくさん感じて、自分が形成していくんだなあと改めて思いました。又桑さんも心成さんもハウさんも理沙さんもとっても輝いていて笑顔がすてきですごく憧れます。ありがとうございました。

(3) 今後の改善点について

「理解を深める講座」を続けてきて感じるのは、「当事者による発信」の重みと、発信力の大きさである。その点から、以下2点を課題としてあげる。

1. 当事者の発信を、いかにより多くの方々に届けることができるか、その方法と広報について、より検討が必要であろう。今回、大学教員の方々、ご自分の学生に声をかけてくださり、また、会場も大学内ということで、若い世代の参加が多く見られた。一つの手段として有効であろう。

多文化共生や外国につながる方々のことに、ほとんど関心をもっていない方々が、理解を深めて下さらなければ、講座実施の意義は十分には達成できていないとも言える。その方法を考えていかなければならない。

2. 登壇者からの発信、来場者からのメッセージを、さらにどのように発信していけるか、その手段についても検討が必要である。今回、講座全てを録音、録画しており、この素材を、関係者のプライバシーにも配慮しながら、何かさらなる発信につなげていけないか、検討の必要がある。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：「高校卒業後の進路選択について」】			
目的・目標	・ワークショップに連動した読み教材により、「生活者としての外国人」が関心を深く寄せるテーマについて学び、外国人住民の生活力を向上させること ・外国人住民にとって関心の深いテーマでの教材を提供することにより、「読むこと」への関心を抱ききっかけを提供すること		
内容の詳細	ワークショップに連動した教材「高校卒業後の進路選択について」 ・同テーマで実施したワークショップのプレゼンテーション用スライドに、説明文を付した「読み」教材 ・日本語のレベルは中級程度を想定している ・「進路選択で大切なこと」、「大学や専門学校等、各進路の特徴を知る」、「進学に必要なお金」といった内容にて作成 ・子どもをもつ親を読み手として想定している ・A4 40頁		
実施期間	平成30年12月～平成31年3月15日	作成教材の 想定授業時間	1回 3時間 × 20回 = 60時間 ワークショップ実施の場合は、2時間 × 3回 = 6時間程度
対象者	日常生活に困らない程度の日本語力があり、中級レベルの日本語学習を希望する外国人住民(但し、その内容は、全ての外国人住民に有用なものである)	教材の頁数	全 40 頁 (36スライド)
カリキュラム案活用	「カリキュラム案」「ガイドブック」「教材例集」をテーマ選びや内容検討の際に参考にした。		
事業終了後の教材活用	当団体のホームページ、本教材作成にあたって協力していただいた(株)進路情報ネットワークのホームページに無料公開し、ワークショップや日本語教室において「読解教材」「日本事情教材」として活用。		
成果物のリンク先	・当団体ホームページ内: https://drive.google.com/drive/folders/11AC-OHeq2_tQzPeloGhrAS4zBHKSDQ05?usp=sharing ・(株)進路情報ネットワークのホームページ: https://www.shinrojoho.com/		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業の目的は、日本に定住する覚悟を決めた外国人住民(とくに難民)が、言葉の学びを通して生活基盤を強固なものとし、より心豊かな「定住」に向かって前進していくこと、より多くの日本人住民・先輩外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、結果として、関わる全ての者たちが、共に手を携え、より良い多文化共生社会日本をつくっていくことである。

※当団体は、難民を主な支援対象とし、昭和54年から活動が続けている。「定住」を目指す外国人住民が抱える問題や悩み、希望、期待、そして成長を、30年以上の歳月をかけて間近で見てきた。「難民支援」という活動の性質上、地域に深く根差した活動展開はできないが、団体がこれまで得た知見、先輩外国人住民の経験、文化庁事業の成果を反映させ、「日本語教育」「人材育成」の具体的提示、「現場で使える教材」の提供を進め、地域日本語教育に貢献したいと願っている。とくに平成30年度は、平成28年度より3か年の計画で進めてきたそれぞれの取組を、より完成度の高い形で完了させることが、当団体に課せられた使命であると考えている。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

「日本語教育」「人材育成」の取り組みについては、参加者からのアンケート結果、運営委員での振り返りをもとに検証する。
「教材作成」については、複数名の外国人住民、日本人ボランティア、および運営委員からのコメントをもとに検証する。

当法人が平成23年度以来、文化庁委託事業として継続してきたそれぞれの取り組みは、毎年、検討改善を重ね、事業の目的・目標が十分に達成されていると判断する。

平成30年度は、とくにこれまでの「集大成」の事業となるよう、どの取り組みも、これまでの取組を再度振り返り、より受講者、参加者、利用者のニーズに合った取り組みの内容、方法を検討した。

■日本語教育「体験を通して学ぶ導入期日本語講座」については、平成29年度までにまとめた「実例集」を利用し、春夏、秋冬とも受講者の満足度の高い日本語学習活動を進めることができた。平成30年度文化庁日本語教育大会、当団体主催のボランティア向け研修、他所でのボランティア研修等では日本語講座について積極的に報告をするよう努めた。活動の進め方や日本語学習支援の方法に悩む地域の日本語教室、ボランティアに対して活動のヒントを提供できたのではないかと考える。

生活力向上のための参加型講座(ワークショップ)は、今年度も新たなテーマで実施した。講座を通じて、新たな連携が生まれていることも大きな成果である。

■人材育成については「理解を深める講座」「ブラッシュアップ講座」「活動基礎講座」というそれぞれ特色のあるボランティア向けの講座を行うことができた。とくに「活動基礎講座」は平成29年度に第1回目の10講座(20時間)をスタートさせ、平成30年度はさらに20時間講座を2回実施することができた。第3回では、「以前この講座を受けた方から勧められて」という方が何人か参加した。また、一部受講できなかった回の講座を、その後受講するなどして、「修了」する方も複数名見られた。さらに「地域に縛られない」「地域を越えた」「地域のために柔軟に対応できる」団体として、「つなぐ役割」を実感している。助成対象事業ではないが、平成30年度には、これまで講座受講した方々による集まりももたれ、地域日本語教室で活躍する日本語学習支援者のゆるやかなネットワークづくりに貢献できたのではないかと考える。

■教材作成についてはワークショップの展開にあわせて、新たに生活者やその家族の視点を重視した読み教材を作成することができた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

昨年度も記した事であるが、当団体が支援する難民、中国帰国者等の在留期間はより長期化しており、「標準的なカリキュラム案」の掲げる目的や目標は常に取り組みの指針となっている。

日本語学習に励む方々も、すでに「子どもの教育に奔走する人」「老後の生活を心配する人」などが出てきており、「生活者」としての課題がさらに広く深くなっていることを実感する。そうした中で、標準的なカリキュラム案だけでは対応しきれない「生活者としての外国人」の言語面での困難があるのかどうか、その解決はどのようにはかられるべきなのか、検証する時期に来ているのかもしれない。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

平成30年度は様々な団体との連携が進んだ。

とくに「日本語教育・ワークショップ」の実施により、新たに「東京西徳州会病院」「薬樹R&D株式会社」等と連携が図られた。外国人住民の心身の健康をいかに維持していけるかという課題解決を試みた結果である。また、「(株)進路情報ネットワーク」「ワーカーズコレクティブ生活クラブFPの会」との連携も継続している。

さらに、人材育成の講座実施を中心に、明治学院大学との協働も順調に進んでいる。他の難民支援団体、外国人支援団体、地域日本語教室からのご相談を受けることも多くなり、講座参加者、講座協力者との顔の見える関係が、団体同士の良好な関係づくりにつながっていることを実感している。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

参加者への周知・広報は、当法人のホームページからの発信を中心に行い、関連するメーリングリストへの投稿や関連団体を通じての周知等を中心に行った。また、過去の講座受講者にも電子メールにて情報を発信した。

事業成果については、当団体の事業報告書にて報告予定である。

また、「理解を深める講座」については、録音を全て文字化し、より広範囲での発信を検討している。

(6) 改善点、今後の課題について

平成30年度も、各分野の専門家やネットワークに大いに助けられ、有意義な取り組みを展開することができた。

このネットワーク、連携をいかにより有意義な取り組みにつなげていけるかをしっかり考えていかなければならない。

「日本語教育」の場で学んだ外国人住民、「人材育成」で学び、つながった日本語学習支援者が、その後、それぞれの場で、どのような発信をし、どのように「一般市民」とつながっていけるかが、今後の大きな課題であると感じている。

入管法改正に伴い、様々な変化が予想される状況にあって、地域日本語教室に参加する外国人住民、日本人住民の力がより大きな力となるよう、「地域に根付かない」「地域を越えた」団体としてできることを考え、実行していかなければならない。

(7) その他参考資料

- 1 案内のチラシ(日本語教室(春夏・秋冬)・ワークショップ(第3回)・ブラッシュアップ講座・活動基礎講座(春夏・秋冬)・理解を深める講座)
- 2 アンケート(日本語教室最終回分(ビルマ語訳・英語訳)・ブラッシュアップ講座(初回分・最終回分)・活動基礎講座最終回分・理解を深める講座)